

松浦党の発展（1/2）

～松浦武士団の起こり…元寇の奮戦～

松浦地方で初めて武士が姿を見せるのは、寛仁3年（1019年：平安時代）、北九州に侵寇してきた刀伊の賊を松浦沿岸で撃退した源知（みなもとのしらす）である。その後、松浦郡の武士としては、宇野（うの）御厨（みくりや）検校（けんぎょう）検非違使（けびいし）「源大夫松浦久」松浦党の党祖とされている。

実在は康和4年（1102年）の年紀がある。（石志文書）。その子とされる上松浦の波多氏、神田氏、佐志氏。原氏を称する松浦源氏流の武士は、他の資料には見ることが出来ないが、唐津市梨川内には「原伊賀守」と刻銘のある六地藏と追善供養墓がある。

「源平盛衰記」によれば、養和元年（1181年）2月13日、松浦党も頼朝に味方して平氏に謀反をおこし源氏を勝利に導いたことがわかる。建久3年（1192年）、源頼朝が鎌倉幕府をひらき、源平合戦で名をあげた松浦党はいち早く鎌倉幕府の御家人として、松浦地方の所領の地頭や領家として活躍した。

室町・戦国時代の東松浦地方には岸岳城の波多氏、玉島鬼が城の草野、大河野日在城の鶴田、厳木獅ヶ城の鶴田、浜田城の佐志氏など、各氏がいた。松浦党は、玄界灘の荒波を乗り切り、東シナ海の大洋を自由に航行できる船を持ちそれを自由に操舵する技能に優れていた。

～2/2へつづく～

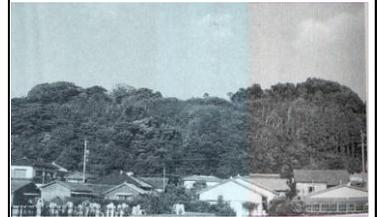
分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など



「原伊賀守」の刻銘がある六地藏と追善供養墓：唐津市梨川内（『鎮西町史』より）



佐志氏の居城浜田城跡：唐津市佐志（『鎮西町史』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『鎮西町史（上）』
- ◆『肥前町史（上）』
- ◆『郷土史誌「末廬国」』
- ◆『石志文書』
- ◆『有浦文書』の中の「注進松浦先祖代々末流次第事」

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

松浦党の発展（2/2）

～松浦武士団の起こり…元寇の奮戦～

～1/2からつづく～

■元寇における松浦党の奮戦

文永11年（1274）の蒙古軍襲来、弘安4年（1281）の再襲来にも博多に侵寇する前の杵岐や松浦沿岸で迎え撃った松浦党の武士たちは奮戦し、松浦党諸家でも多くの戦死者をだした。

・博多湾での奮戦・・・草野・岡本・加茂氏らの活躍

弘安4年、松浦鏡社大宮司草野次郎経永は、行動を共にしていた岡本山城守長繁・加茂総介永藤らと二艘の小舟に分譲し、大矢野・河野隊の先頭きって志賀島付近に停泊している敵艦に肉薄、折からの闇を突いて夜襲をかけ、粉骨身を砕き奮戦した。やがて岡本山城守長繁は戦死を遂げている。そのほかこの合戦で松浦党武将のうち石志次郎兼（かねる）・相知小太郎比（くらぶ）・宇久次郎競（きそう）らは華々しい活躍の末、戦傷を負っている。

・肥前国松浦地方では、来襲の急報を受けた上松浦星賀一帯を領する地頭佐志四郎左衛尉房は、直ちにその子、直（なおす）、留（とどむ）、勇ら三人その他郎党を率いて馬を駆って現地に急行し、星賀村松山に本陣をおき、すがり上る敵のまっただ中に突入し孤軍奮闘したが、親子四人共々戦死を遂げている。

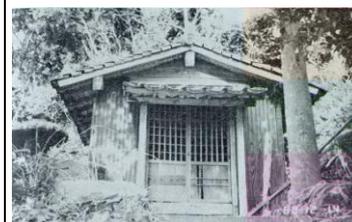
分野

歴史

◎地図・写真・統計資料など



「草野経永誠忠碑」唐津市鏡神社
（『肥前町史』より）



佐志房父子を祭る 太刀神社
（オタッコ様）元軍の襲来に国土を守って奮戦し、父子4人と子ども
壮烈な戦死をとげた。
肥前町大字星賀字松山
（『鎮西町史』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『鎮西町史（上）』
- ◆『肥前町史（上）』
- ◆『郷土史誌「末廬国」』
- ◆『石志文書』
- ◆『有浦文書』の中の「注進松浦先祖代々末流次第事」

◎エピソード・伝承・うんちく など

- 松浦党の呼称・・・松浦地方に住む武士たちの総称で血縁的なつながりがあるという特徴がある。もともと「党」とは漁業の網を数える単位で、一党、二党と古くは数えたといい、海に縁の深い当地方にはふさわしい呼称であるかも知れない。
- 昭和6年（1931）10月20日元寇650年の記念日に当たり、草野次郎経永の当時の戦功を賞され、特に「従四位」の追贈位がなされ、これを記念して昭和8年（1933）3月「草野次郎経永公顕彰会」によって彼が永年奉仕した鏡神社境内にその勲功を永く伝えるために誠忠碑が建てられた。
- 馬渡島と元寇・・・ピクトリーストーンの伝説
1274年（文永の役）、蒙古襲来の元寇のとき、島の西南にある城山に主将馬渡美濃八郎為俊以下島民全員が元寇の撃退につとめたが、元軍に追いつめられ、島民は矢も小石もつき果ててしまった。しかし老婆が「石も石この石ひとつ」と叫びながら元軍目がけていし臼を投げ、元軍を撤退させたという。その時のいし臼が馬渡島に保存されていて勝利の石として語り継がれている。
現在、「相知さん」という名字の方は東京に数軒しか残っていない。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html